

自動走行ビジネス検討会 中間とりまとめ報告書(概要)

平成**27**年**6**月**24**日

自動走行ビジネス検討会

1 はじめに(P1~)

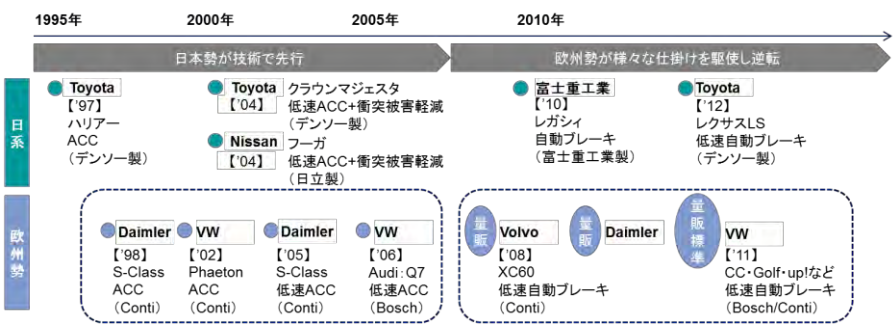
- ▶ 我が国自動車産業は、関連産業を含めて500万人を超える雇用を創出するなど、我が国の成長を支える基幹産業である。
- ▶ 自動車の普及拡大、高齢化が進む中で、事故や渋滞、環境負荷の低減等への対応が急務であり、我が国の基幹産業たる自動車産業には積極的な取組が期待されている。新たな取り組みである自動走行への期待は大きく、関連する市場の拡大も見込まれる。
- ▶ 欧米が活発に取組を進める中で、我が国の強みである自動車メーカーとサプライヤの緊密な連携、すり合わせとつくり込みを活かして、優れた製品で世界に貢献するために、また、自動走行が従来以上に技術の幅が広く、これまでの枠を超えた連携が求められることに対応するためにも、国内関係者の連携や海外との協力のあり方をオールジャパンで検討する必要がある。

2 現状認識

1 自動車メーカーの現状(P3)

- ▶ 我が国自動車メーカーは、交通事故削減に向けて早くから自動走行関連技術に取り組んでおり、「衝突被害軽減ブレーキ」等を世界に先駆けて実用化するなど、欧米メーカーに先行した。
- ▶ これに対して欧州自動車メーカーは、技術的なキャッチアップに努めるとともに、ビジネスで優位に立てるよう仕掛けづくりを進めるなどして、日本勢を逆転した。
- ▶ 我が国自動車メーカーも、技術の強みを活かしつつ、低コスト化等により多くの車種で標準搭載を実現するなど、巻き返しを図った。

図1: 先進安全領域に係る競争状況

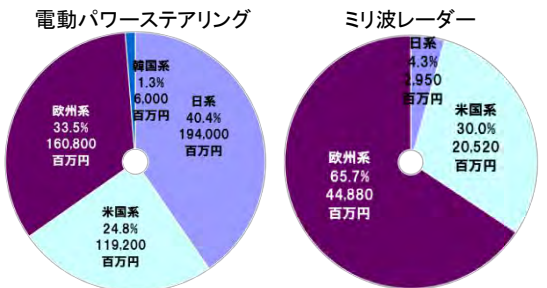


出典: 経済産業省「自動車及び自動車関連技術に係る国内外の研究開発動向調査(平成26年3月)」を基に検討会事務局作成

2 サプライヤの現状(P3~)

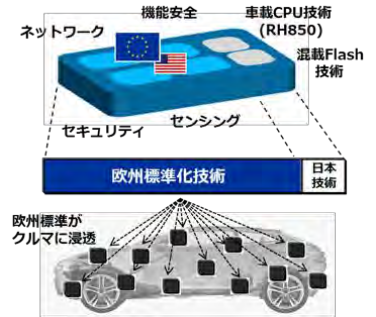
- ▶ 我が国サプライヤも、早くから自動走行関連技術の開発を推進。我が国自動車メーカーが世界に先駆け、自動走行の実用化に着手した際にも必要な装置を提供し、実績を蓄積した。
- ▶ 欧州サプライヤは、欧州自動車メーカーとも連携しつつ、Euro-NCAPを活用したユーザーニーズを先取りする開発や、機能安全に係る基準・標準の巧みな利用等を通じ、キーテクノロジーである「センサー」やこれを使った「安全運転支援システム」で攻勢を強めた。
- ▶ 現時点で大きなシェアを確保できている分野でも、例えば「マイコン」の重要要素技術(IP)についても、欧州の技術が優位であるなど、楽観はできない。

図2: 自動走行関連装置の市場シェア(2012年)



出典: 経済産業省「我が国企業の国際競争ポジションの定量的調査(平成26年3月)」

図3: マイコンに使われるIPの現状



出典: ルネサスエレクトロニクス(株)作成

3 我が国サプライヤの競争力低下は、すり合わせとつくり込みを維持することを難しくするとともに、技術のブラックボックス化も懸念される。サプライヤも含めた我が国自動車産業全体の競争力向上が重要であり、そのための戦略と具体的な取組が必要。